

猿新聞

編集責任者
山村 準

tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

名張鳥獣害問題連絡会

発行部数

【全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：150部
箕曲地区：70部
ひなち地区：220部
つつじが丘：430部

【全戸配布】
国津地区：380部
市民センター：90部
(9地区)
名張市議会：20部
名張市役所：30部

新規参入農家と 在来農家の軋轢

中山間地域の農業者の高齢化はさらに進行し、雑草刈り取り作業などもうできない、稲作の経営を他の人に全て任せたいという声が大きくなってきています。

三重県内では、シカ、イノシシ、サルなどが農業に大きな被害を与えています。春には田植えをしたばかりの苗をシカに食べられ、夏にはイノシシに稲を倒され、秋には実った稲穂をイノシシやサルに食べられてしま...

業は激しい変化の渦中にあります。こういった中、近年一切の農作業を受託者に委託するという、いわゆる委託農業が注目を集めていて地域農業の担い手として重要な役割を果たすというところが期待されています。

農業の受委託とは、「請負耕作の一種で、農家が所有農地の経営の一部または全部を他

の農家に委託すること。所有権は移さずに委託農家が作物の栽培を受託農家に請け負わせ、耕地の賃料(地代)だけを耕作者から受け取る」。基本的にはこうなっていますが、高齢化農家が進行する中山間地域では、新たな担い手の確保が難しく近年では「耕地賃料もいらない」、「耕作してくるならお金を払う」という現状です。

中山間地域では、耕作放棄が著しく拡大し農業が持つ国土保全、水源涵養、良好な景観形成など多面的機能の喪失が危惧されるという激しい変化の中で、農業生産を維持することが困難になってきて

います。不利な営農条件の下、高齢化や担い手不足などが進行する、中山間地域における農業の現状は、不利な営農条件下、人口の減少と高齢化の進行、農業の担い手不足という大きな課題を抱えるなど日本の稲作農



雑草の中に収穫しない稲が見える

「請負耕作の一種で、農家が所有農地の経営の一部または全部を他

の農家に委託すること。所有権は移さずに委託農家が作物の栽培を受託農家に請け負わせ、耕地の賃料(地代)だけを耕作者から受け取る」。基本的にはこうなっていますが、高齢化農家が進行する中山間地域では、新たな担い手の確保が難しく近年では「耕地賃料もいらない」、「耕作してくるならお金を払う」という現状です。

中山間地域では、耕作放棄が著しく拡大し農業が持つ国土保全、水源涵養、良好な景観形成など多面的機能の喪失が危惧されるという激しい変化の中で、農業生産を維持することが困難になってきて

います。不利な営農条件の下、高齢化や担い手不足などが進行する、中山間地域における農業の現状は、不利な営農条件下、人口の減少と高齢化の進行、農業の担い手不足という大きな課題を抱えるなど日本の稲作農

の農家に委託すること。所有権は移さずに委託農家が作物の栽培を受託農家に請け負わせ、耕地の賃料(地代)だけを耕作者から受け取る」。基本的にはこうなっていますが、高齢化農家が進行する中山間地域では、新たな担い手の確保が難しく近年では「耕地賃料もいらない」、「耕作してくるならお金を払う」という現状です。

中山間地域では、耕作放棄が著しく拡大し農業が持つ国土保全、水源涵養、良好な景観形成など多面的機能の喪失が危惧されるという激しい変化の中で、農業生産を維持することが困難になってきて

います。不利な営農条件の下、高齢化や担い手不足などが進行する、中山間地域の小規模農家は、先祖代々の田畑を維持・保全することすら困難な状態で、山村における農業は斜陽産業といわれています。

中山間地域のように営農規模が小さいほど委託する傾向が強く、委託農家の増加が予想される中、大きな問題となっているのが、受託農家の確保です。

名張近辺では農業を受託しているのは、農業経験の比較的不な、中小企業が副業的に参入している事例が多いです。受託営農を指す企業は、農家にとつては「闇夜の灯」。

だが、受託営農とは単なる農業参入ではなく、地域の人々と密接に関わりつつ、地域文化の発展に寄与する取り組み全体を意味しているのだと、私は考えています。また、被害対策などについては地域の実情に応じた対策理念を共有しなければならぬと思います。

いわゆる、郷に入れば郷に従うという概念が必要で

農村集落には、その形成過程の中で醸し出され継承されてきた伝統や慣習など、地域固有の約束事が多々あります。中でも農業に関する慣習には厳しいものがある中、在来農民は今でもそれを忠実に遵守しています。

しかしながら、農業の近代化や農村の高齢化・人口減少などの進行とともに、こういった農村の社会的特徴が衰退しつつあり、特に受託農家の参入が大きく影響しているように考えられます。

受託農家は、管理に極端に手間暇をかけない農業に徹しています。草刈りは農業の基本ですが受託農家はよく一年一回。一年中刈らないことが多いです。これは生産コスト削減のためと思われる。だが、これは省力農業ではなく省略農業です。草刈りの省略は隣接の農家にとっては害虫の発生や雑草の種子飛散など迷惑至極で許せない行為です。

加えて、草ボウボウの圃場は、野生動物を誘引し獣害の要因にもなり、集落全域が迷惑を

受託農家は、管理に極端に手間暇をかけない農業に徹しています。草刈りは農業の基本ですが受託農家はよく一年一回。一年中刈らないことが多いです。これは生産コスト削減のためと思われる。だが、これは省力農業ではなく省略農業です。草刈りの省略は隣接の農家にとっては害虫の発生や雑草の種子飛散など迷惑至極で許せない行為です。

加えて、草ボウボウの圃場は、野生動物を誘引し獣害の要因にもなり、集落全域が迷惑を

受託農家は、管理に極端に手間暇をかけない農業に徹しています。草刈りは農業の基本ですが受託農家はよく一年一回。一年中刈らないことが多いです。これは生産コスト削減のためと思われる。だが、これは省力農業ではなく省略農業です。草刈りの省略は隣接の農家にとっては害虫の発生や雑草の種子飛散など迷惑至極で許せない行為です。

加えて、草ボウボウの圃場は、野生動物を誘引し獣害の要因にもなり、集落全域が迷惑を

雑草が繁茂する畦畔



獣害対策の基本である冬場の餌を無くす重要な対策、稲の刈取り後の「秋お越し」は、殆どの受託農家は省略しています。

山には餌の乏しい秋冬にかけて、青草や「ひこばえ」は野生動物にとっては貴重な冬場の餌になります。これを放置していると春に元気がよが生まれ、子連れのイノシシたちが集落へ出没するようになります。これもまた集落全域が迷惑を被ることになります。

さらに、私が最も驚くのが収穫を見送る受託農家があることです。収穫を省略することで、どんなメリットあるのか不思議でなりません。受託農家の農法は既存の土地が長い間に渡り、蓄えたものを吸い取って「米」という商品に変えるという、まさに搾取という言葉が

ふさわしい農法だと思

います。手抜きした分、最後にしわ寄せが来るのは耕作者自身です。獣害の多発や、圃場が荒れ農産物の品質や歩留まりが低下し、利幅が薄くなって、ついには赤字経営に陥るといふことになります。

農業を請け負う受託農家と在来農家には、農法そのものの考え方に開きがあり軋轢を生む原因になっています。しかし、軋轢は全ての受託農家が対象ではなく一部特定の受託農家が起因となって発生しているのです。

農業は「きつい」「汚い」「危険」に加えて現在では「儲からない産業」といわれ、世襲による人材確保も困難な現状です。山村での農業を発展持続を図る上で欠かせないのが、新規参入農家です。今後は、受託農家、在来農家が手を

野良猫のせいは、人間のせい

取り合って、持続可能な農業に取り組まなければ、中山間地域農業の未来はありません。「儲からない産業」と言われる農業ですが、農業は人類が地球上で初めて起こした産業で、その歴史は、どの産業よりも古いのです。また、農業が持つ国土保全、水源涵養、良好な景観形成など多面的機能はどの産業にもない重要なものなのです。

アミノクロウサギやヤンバルクイナなど希少な哺乳類や鳥類などに深刻な被害を与えています。また、最近の琉球大学の調査によると国の天然記念物、オキナワトゲネズミなどの希少種が「野猫」に捕食されている実態が明らかになりました。ペットとして飼われている犬や猫、そして自然界で生きている鳥獣、そして私たち人間も、それぞれ命を授かり生きているのです。

猫が野生化して、山や森に住み着き、希少な野鳥や小動物を食べ始めてしまう。そんな「野猫」も、もともとはペットとして人間に飼われていた存在。捨てられたり、逃げ出したりして増えたりしていったのです。「野猫」は「飼い猫」が野生化し、「法律上、害獣として駆除の対象」になる猫のことをいいます。人里に住む、いわゆる「野良猫」とは区別され、山や森、特に日本では離島の森林に住んで、絶滅が心配される希少な野鳥や小動物を食べてしまうと

いう問題が多発しています。

猫が野生化して、山や森に住み着き、希少な野鳥や小動物を食べ始めてしまう。そんな「野猫」も、もともとはペットとして人間に飼われていた存在。捨てられたり、逃げ出したりして増えたりしていったのです。「野猫」は「飼い猫」が野生化し、「法律上、害獣として駆除の対象」になる猫のことをいいます。人里に住む、いわゆる「野良猫」とは区別され、山や森、特に日本では離島の森林に住んで、絶滅が心配される希少な野鳥や小動物を食べてしまうと

いう問題が多発しています。

猫が野生化して、山や森に住み着き、希少な野鳥や小動物を食べ始めてしまう。そんな「野猫」も、もともとはペットとして人間に飼われていた存在。捨てられたり、逃げ出したりして増えたりしていったのです。「野猫」は「飼い猫」が野生化し、「法律上、害獣として駆除の対象」になる猫のことをいいます。人里に住む、いわゆる「野良猫」とは区別され、山や森、特に日本では離島の森林に住んで、絶滅が心配される希少な野鳥や小動物を食べてしまうと

いう問題が多発しています。

猫が野生化して、山や森に住み着き、希少な野鳥や小動物を食べ始めてしまう。そんな「野猫」も、もともとはペットとして人間に飼われていた存在。捨てられたり、逃げ出したりして増えたりしていったのです。「野猫」は「飼い猫」が野生化し、「法律上、害獣として駆除の対象」になる猫のことをいいます。人里に住む、いわゆる「野良猫」とは区別され、山や森、特に日本では離島の森林に住んで、絶滅が心配される希少な野鳥や小動物を食べてしまうと

いう問題が多発しています。

猫が野生化して、山や森に住み着き、希少な野鳥や小動物を食べ始めてしまう。そんな「野猫」も、もともとはペットとして人間に飼われていた存在。捨てられたり、逃げ出したりして増えたりしていったのです。「野猫」は「飼い猫」が野生化し、「法律上、害獣として駆除の対象」になる猫のことをいいます。人里に住む、いわゆる「野良猫」とは区別され、山や森、特に日本では離島の森林に住んで、絶滅が心配される希少な野鳥や小動物を食べてしまうと

いう問題が多発しています。

サルを知ろう③

日本で生息しているサルは、一部の外来種を除き、日本にもともと住むサル仲間、野生ではニホンザルの一種のみです。屋久島に生息するヤクシマザルもニホンザルの亜種なので、種類としては同じです。

ニホンザルは、世界中で最も北側に生息するサルとして、貴重な存在でもあります。オトナのオスとメス



の見分け方は、大きっぱいになればオスの方が体が大きく、体型はくさび形をしています。メスは体全体に丸みがあります。しかし、小柄なオスもいますし、大柄なメスもいますので、もっとも確かな決め手は性器ということになります。

写真II宮崎学「森の動物日記」より引用。オトナオスとメスの見分け方は、大きっぱいになればオスの方が体が大きく、体型はくさび形をしています。メスは体全体に丸みがあります。しかし、小柄なオスもいますし、大柄なメスもいますので、もっとも確かな決め手は性器ということになります。

▼オトナオス
弓なりに反った、厳つい肩、赤い顔と尻と丸い感じのなで肩、腹が出ていてピンクの長い乳首が目立ちます。

▼オトナメス
オスよりも全体的に丸い感じのなで肩、腹が出ていてピンクの長い乳首が目立ちます。

▼ワカモノオス
体格はオトナオスに比べ一回り小さく、脚が長く見える。毛艶がよく肌色は薄いピンク色でシワがなく丸丸が目立つようになります。

▼ワカモノメス
体格はオトナメスと比べ一回り小さく、脚が長く毛艶がよく顔と尻はピンク色で皺がよくピンク色のポッチとした乳首が目立ちます。

私と白猿の出会い、三重県が発信器を装着して放牧する捕獲檻に頭の白猿が捕獲されるときです。それは平成16年11月29日、奈垣での出来事です。当時、彼女の推定年齢は15歳。所定の手続きを踏み発信器を付けると名付られ放牧されました。以来、Cから発する特定の周波数の電波で群の位置を把握できるようになり、私はこれにより得た情報を名張市猟友会などに提供してきました。当時、私は「さるどこネット」の存在を知りませんでした。したが、名張では、すでに「さるどこネット」を利用されている会員がおられたようです。

その後、名張B群の調査・研究をされている、京都大学院生で、霊長類研究所の「山田彩さん」と知り合う機会を得ることができ、平成17年12月28日、霊長類研究所の協力により代わりの猿を捕獲することができました。4か月ぶりの受信復旧を観察してきましたが、彼女は群れでは特別の存在で、群れから少し離れたところから群れを見守っていて、移動時は彼女が細心の注意を払い、群れをリードしていました。また、

子供を背にする在りし日の白猿。何故か小猿は茶色です。

名張B群では、大量捕獲以降、長らく群れの位置情報を発信する個体が不在で、対策は目視や食痕などフィールドサインに頼ってきました。しかし、対策上、的確な位置情報は欠けるとの出来ないもので、B群エリア住民は早急な発信器装着個体の放牧を待ち焦がれていました。ところが、令和2年2月5日、宇陀市西谷の旧小学校付近で捕獲、同6日、発信器装着、放牧という情報が入ってきました。個体名は、B1(仮称)周波数142.9500。

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市

赤目星川・一ノ井、錦生井山、自然保護の歴史。共生の歴史。これら（精霊信仰）の伝統に依りて生活した時、この自然を禁まがた源流となす。文・田村修市



B群情報
2月5日、西谷の旧小学校付近で捕獲、同6日発信器装着放牧。
2月17日、すみれ橋付近で12頭目視。識別番号359 周波数9500
B1は群れに合流した模様？
2月18日、西谷旧小学校付近で強受信。